

落ニ於テハ出張診療ヲ、全般的ニハ委託診療ヲ、特ニ無醫村中三十六ヶ村ノ巡回診療村ヲ選定シ活動セシメ取扱患者實人員一萬一千三百七十七人延人員八萬四千四十三人ヲ救療セリ。

イ、巡回診療

縣衛生技師及書記各一名ヲ以テ診療班ヲ組織シ無醫村中何等施設無キ村及開業醫ヲ有スルモ地域廣汎且醫療ニ恵マレザル三十六ヶ村ヲ選定シ他ニ特ニ應急的活動ニ務メタリ、尙本診療ノ惠與範圍區分ニ就キテモ多大ノ注意ヲ以テノゾミ徒ラナル濫救漏救無キヲ期シ取扱患者實人員四千三百三十四人延人員二萬三千九百十人ヲ救療セリ。

ロ、出張診療

出張診療ハ縣下郡市醫師會員ニ依頼シ無醫村及山間部有醫村中醫療ノ便極メテ惡シク常ニ不安ヲ抱キツ、アル山間僻陬村十六ヶ村ヲ選定シ月四回以上一回三時間以上ノ勤務ノ責任ヲ醫師ニ持タシメ其ノ最大機能ヲ發揮セシメ取扱患者實人員五千九百二十八人延人員四萬一千八百十人ヲ救療セリ。

ハ、委託診療

委託診療ハ縣醫師會、藥劑師會等ニ依頼シ往診、外來、入院ノ方法ヲ以テ縣下貧困者ノ救療ニ盡セリ其ノ取扱患者實人員一千五十五人延人員一萬八千三百二十三人ヲ救療セリ。

長野縣

實施ノ概況

昭和十一年度ニ於テハ普遍的施設タル^{財團}財團濟生會委託救療ヲ本體トシ地理的條件等ニ依リ該施設ノ利用困難ナル村落ニ對シテハ其ノ醫療缺陷ヲ補フ爲巡回診療出張診療等ノ特殊施設ヲ講ジ以テ救療ノ完璧ヲ期セリ、概況左ノ通り、

概況

一、普遍的施設

^{財團}財團濟生會委託救療ハ左記方法ニ依リ救療ノ徹底ヲ期セリ。

- 1 カード階級者及之ニ準ズル者(救護法、軍事扶助法、其ノ他法該當者ノ救療ヲ除ク)ニシテ眞ニ救療ヲ要スル者ヲ調査シ診療券ヲ交付シ最寄ノ醫師若ハ病院ニツキ無料ニテ診療ヲ受ケシム。
- 2 右診療券ハ方面委員ノ調査ニ基キ市町村長之ヲ交付ス
- 3 縣ハ市町村ニ對シ年四回ニ分チ配當金額ヲ通達シ市町村ハ該配當金額ノ範圍内ニ於テ診療券交付ノ適正ヲ期シタリ。右配當ヲ爲スニ當リ特殊救療施設ヲ設ケタル個所ニ對シテハ他市町村トノ公平ヲ保ツ爲斟酌セリ。尙市町村ニ於テ配當額ノ範圍内ニ於テ救療ヲ爲シ得ザル特別ノ事情發生シタルトキハ別ニ縣ニ於テ豫備トシテ保留シアル豫算ヨリ追加配當ヲ爲シタリ。
- 4 診療ヲ爲シタル醫師若クハ病院ニ對シテハ其ノ請求ニヨリ縣ヨリ直接費用ノ支拂ヲナセリ。
- 5 實施成績ハ次ノ通り

	外來	往診	入院	計
患者取扱實人員	四五五	二五三	一六四	八七二
治療延日數	八、八二二	四、九三七	三、二三〇	一六、九八九

二、特殊施設

A 巡回診療

醫師ナキ農山村ノ中最僻陬地十六ヶ村ヲ選ビ一ヶ村月四回ノ巡回トシ左記方法ニヨリ救療ノ徹底ヲ期セリ。

- 1 班數 三班(前年度ト同ジ) (出張診療ヨリ編入二ヶ村)
- 2 各班ノ受持村數 第一班六ヶ村 第二第三各班五ヶ村
- 3 巡回方法 一ヶ月四回 一回一日滞在

4 救療資格

イ 村税特別税戸數割賦課額一戸平均額ノ四割以下ヲ負擔スル者及免稅者ヲ救療スルコトヲ主眼トシ之等ノ患者ハ無料トス

ロ 前號ニ該當セザル者ニ對シテハ前號診療ニ差支ヘナキ限り診療ヲ爲スモ之等ノ患者ハ郡醫師會規程ニ依ル料金ト等額ヲ村ヘ寄附スルコトトシタリ。

ハ 診療ニ必要ナル藥品及消耗品ノ購入ハ村費負擔トシ前號ニ依テ得タル寄附金ハ本事業關係經費ニ充テ又ハカード階級者ノ治療入院等ノ費用ニ充ツルコトトシタリ。

5 其ノ他診療所ノ設備、事業ノ斡旋、事務ノ援助等ハ其ノ村ニ於テ遺憾ナキ様手配シタリ。

6 實施成績次ノ通り

外來 往診 計

取扱患者數 五、〇一九 一一〇 五、一二九

治療延日數 五二、八一三 六六七 五三、四八〇

B 出張診療

醫師ナキ農山村ニシテ巡回診療ヲ施行セザルモノ、中必要ト認ムル村落ヲ選ビ出張診療所ヲ開設シ左記方法ヲ以テ救療ノ徹底ヲ期シタリ。

1 開設村數 四十七ヶ村(前年度四十九ヶ村)(廢止一ヶ村巡回診療ヨリ編入一ヶ村)

2 被救療資格 巡回診療同様

3 醫師並手當經費

イ、醫師ハ郡市醫師會長ノ推薦ニ依リ知事之ヲ囑託ス

ロ、手當ハ月三十圓平均トシ地理的條件等ニヨリテ差等ヲ附ス

ハ、診療ニ必要ナル藥品及消耗品ノ購入ヲ爲スコト右ニ要スル費用ハ村ノ負擔トス

4 出張回数 一週一回 一回一日滞在

5 其ノ他診療設備、事務ノ斡旋、援助等ハ一切其ノ村ニ於テ遺憾ナキヲ期シタリ。

6 實績次ノ如シ。

外來 往診 計

取扱患者數 一六、四六七 一一三 一六、五八〇

治療延日數 一八二、六〇四 一、八四四 一八四、四四八

結論

以上ハ昭和十一年度ニ於ケル救療事業ノ概況ナルモ、特別議會等ノ關係ニ因リ豫算配布ガ數度ニ亘リ一年間ノ計畫樹立ガ困難ナリシ爲不取敢前年度救療事業ヲ踏襲シタルニ過ギザレ共、實施成績ハ比較的良好ニテ縣民感謝ノ裡ニ完了スルヲ得タリ。

宮城縣

實施ノ概況

一、縣下二市二百ヶ町村中昭和十一年度ニ於テ濟生會ヲ通ジテ外來患者ニ對シテ診療ヲ行フベキ町村ハ二市百七ヶ町村ニシテ内實施シタルハ二市百五十八ヶ町村ナリ(三十ヶ村ハ縣立診療院又ハ出張診療所設置シタル關係上外來患者ニ對シテハ診療ヲ行ハズ)但入院患者ニ對スル診療ハ全縣下ニ施行シ居ルモ事實施行シタルハ二市六十八ヶ町村ナリ。

二、別ニ揭示セル如ク外來實人員八百四十九名入院實人員八十九名ニシテ之ヲ月別ニ見ルト年度初ノ四月ニハ外來實人員百二十名入院ニ於テハ二十一名ニシテ漸次人員減少セル如キモ大部分ハ重症或ハ慢性ノ患者ナルタメ繼續治療ヲ受ケタル結果ト豫算ノ關係上益々要救療者ノ激増スル近時ノ實相ニモ不拘新患者ノ診療見合セタルニ基因スルモノナリ著シキハ一ヶ年治療

ヲ受ケ尙轉歸ニ至ラザルモノモ相當數ニ上リタリ延人員ニ於テ之ヲ見ルトキ實ニ外來ニ於テハ四萬四千四百二十一名入院ハ七千四十九名ノ多數患者ヲ診療セリ斯クシテ本救療事業ハ汎ク普及徹底シ其ノ實績極メテ顯著ナリキ。

三、前記ノ如ク救療範圍ハ殆ンド全縣下ニ亘リ受診者ト否トヲ問ハズ縣民均シク 聖恩ノ無窮宏大ナルニ唯ミ感激シ居レリ殊ニ始メテ醫療ノ惠澤ニ浴シタル者ノ感激ノ念ハ其ノ言其ノ行ニ現ハレ國民生活ニ一大曙光ヲ與ヘシモノト謂フヲ得ベシ。

福島縣

實施ノ概況

本縣ニ於テハ昭和十一年度國費二萬八千五百六十五圓ヲ醫療救護費トシテ配當ヲ受ケタルヲ以テ、前年度ノ救療成績ト縣下ノ實情トニ鑑ミ、ヨリ有意義ナル成績ヲ收メ以テ救療ノ實ヲ舉ゲムト一層周到ナル施設計畫ヲ樹立シ前掲救療費ノ内一萬四千七百九十五圓ヲ巡回診療費ニ充テ之ニ縣費五千八百圓ヲ加ヘ醫師、看護婦ヲ各一班トスル巡回診療班三班ヲ繼續組織シ各班ニ專用ノ自動車ヲ使用シ開業醫師ナキ交通不便ナル農山村三十二ヶ村ヲ選定一ヶ月二回ノ豫定ヲ以テ救療ヲ實施シタル處取扱實人員一萬三百十八人治療延日數七萬二千四百十七日ニ達シタリ。

更ニ前掲救療費ノ内一萬三千七百七十圓也ハ 財團 濟生會ヲ通ジ縣醫師會ト契約ノ下ニ各郡市ノ開業醫師ニ一般委託診療ヲ、開業醫師ナキ農山村十一ヶ村ニ對シ委託出張診療セシメタル處、救療實人員二萬四千五百二十人治療延日數二十九萬一千五百四十六日ナリ。

尙此ノ外齒科醫師ノ委託診療並ニ藥劑師ガ醫師ノ處方箋ニ依ル調劑及産婆ノ助産等一切ヲ引受ケシメタルニ齒科醫師ノ取扱實人員八十六人治療延四百三十二日藥劑師ノ調劑十四人助産取扱百五十一人ノ救療實績ヲ收メタリ。一方醫療ノ途ヲ有セザル結核患者ヲ 財團 濟生會ノ救療事業トシテ縣立回春園ニ收容セシメタリ、之ガ取扱患者實人員三十人延三千三百三日ナリ。其他開業醫師ナキ僻村ニ對シ胃腸藥一萬二千三百八十六日分感冒錠十萬五千二百十日分凍傷膏五百四十罐ヲ配付救療ニ努メタリ。

以上巡回診療、委託診療、出張診療、回春園救療結核患者ヲ總括スルニ取扱患者總實人員三萬四千八百六十八人延日數三十六萬七千二百六十六日ヲ算セリ。

其他特記スベキ事項

本縣ニ於テハ昭和七年以降恩賜醫療救護ノ御趣旨ノ全面的普及徹底ニ努メ本醫療救護事業ニ過誤ナキヲ期スルト共ニ昭和七年九月本事業ノ基礎的準備ニ萬全ヲ期シ、爾來實施中ニシテ本年度ノ救療人員三萬四千八百六十八人ヲ一千五百九萬縣民ニ對比スルトキハ2%強ノ救療ノ實ヲ舉ゲタリ。

而シテ一度巡回診療施行セシ村ニ於テハ事情ニ依リ中止セラル、ガ如キ事アラムカ再度ノ巡回診療ヲ要望スルノ實情ニシテ本救療事業ノ趣旨相當普及徹底シタルモノト信ゼラレ現下ノ時局ニ於テ救療事業ガ縣民ニ與ヘタル影響ハ實ニ農山漁村ノ困窮セル罹病者ヲ救療シタルノミナラズ、地方民ノ精神上ニ及ボシタル效果甚大ナルモノアルヲ以テ繼續實施ノ要アリト認メラル。

二、挿話 福島縣信夫郡中野村青年團文藝部發行雜誌太貴のこのより。

嗚呼、聖恩ニ感泣シテ

信夫郡 ○ ○ 村 ○ ○ 藤 ○ ○ ツ

カケマクモカシコキ極ミ、貧困病者ヲ哀憐シ給ヒ、コノ大瀧ニモ冬期降雪ノ日ヲ除キテ縣ノ診療班ハ月二回來診アリ數多ノ貧困ナル病者ヲ救ハセタマフ 大御心。カクモ尊キ 御聖恩ニ浴スル、我等ハ感極マツテ只管無限ノ有リガタサニ恐懼措ク所ヲ知ラズ御禮ノ言葉モアリマセン。

私ノ姑ハ銅屋ノ炭燒小屋ニ行ツテル中先日發病トウ〜永眠イタシマシタ、長々皆様ニオ世話様ニナリマシタ、茲ニ更メテ厚ク御禮申上ゲマス。

ズツト前ヨリ身體ノ健康ガ勝レマセンノデ、私手許ニオ置キ申シテ心ユクバカリ看護シタイト思ヒマシタガ複雑ナ事情ノタメ弟ト共ニ山小屋ニウツラレマシタ、其後如何ナル様子カト案ジテアリマシタ處舊正月二日ヨリ食事ス、マヌ由弟ノ知ラセ

ニ驚キ實家へ御連レ申サバヤト行ツテ見マスト、ウゴカス事モ出來カスル容體醫師ノ來診ヲ乞ハントスル矢先〇〇村役場へ縣ノ診療班ノ御出張ノ由、オ願シタトテ、トテモ御來診下サルマイト思ヒマシタ。シカシ「神ニハ物ヲ申シテ見ロ」トイフゴトモアルカラ、佐藤區長サンニオ話シテ見タラ佐藤區長サンハ大イニ御同情下サレ、トニ角願ツテ見テヤラウ、然シ僕ハ午後一時役場ニ行クノダガ醫者ハ午前限リノ筈ウマク間ニ合ヒバヨイガトイフオ話デシタ、ソレデトモ望ナキ事ト半バアキラメテキマシタ所、區長チンノオ骨折デ區長サンガ先頭ニ立チ御案内下サレ富田サン縣ノオ醫者様ガオソロヒデアノ人跡マバラナ山ノ中ニオ越シ下サレ丁寧ニ御診察下サイマシタ、嬉シクテ「涙ガゴボレマス。有ガタクテ「オ禮ノ申様モアリマセン、定メテ母モ満足シテアノ世ニ逝イタ事ト思ヒマス、天ヲ仰ギ地ニフシテ三拜九拜シテ厚ク「オ禮ヲ申シ上ゲマス。

岩手縣

實施ノ概況

昭和十一年度ニ於ケル救療ニ關シテハ昭和十年度ノ實施計畫竝救療規定ニ準據シ既往ノ經驗及社會ノ變遷ニ順應シ本事業遂行ニ遺憾ナキ様努メタル結果救療總人員一萬二千九百四十六人延人員十三萬八千九百七十七人ヲ救療セリ。

イ、巡回診療 縣救療醫、産婆ヲ以テ組織シ醫師ナキ村及醫師アルモ面積廣大(十方里以上ノ村)且交通不便ナル村ニ對シ月二日乃至三日間宛巡回診療シ其ノ救療實人員二百三十五人延人員一千四百四十五人ヲ救療セリ。

ロ、出張診療

出張診療ハ管下郡市醫師會員ニ委嘱シ隣接町村ニ醫師ナク且醫師アルモ面積廣大、交通不便ニシテ醫療ノ圓滑ヲ缺ク縣下二十六ヶ村ニ對シ月二回乃至三回宛出張救療シ其ノ實人員三百四十人延人員三千百一十一人ヲ救療セリ。

ハ、委託診療

委託診療ハ縣醫師會、郡市醫師會員、縣藥劑師會員、縣齒科醫師會員、縣産婆會員ニ委嘱シ往診、入院、外來、藥劑交付、助産ノ五方法ニ依リ診療シ其ノ救療實人員一萬二千三百七十一人延人員十二萬六千三百四十一人ヲ救療セリ。

ニ、助産

助産取扱ニ關シテハ未ダ十分趣旨徹底セザル向アリ、其ノ取扱町村概ネ定マリ居リ全縣下一般ニ及バザルヲ以テ努メテ其ノ利用ヲ奮勵シタル結果其ノ取扱實人員百十五人ニ達シタリ。

ホ、救急箱ノ配給

縣下醫師ナキ村中特ニ交通不便ナル箇所ニ對シ應急措置自療用衛生材料函(救急箱)ヲ昭和七年度以降七百九十六個購入區長宅小學校巡查駐在所方面委員宅ニ配置シ一般民ニ利用セシメ尙内容藥品消耗濟ノ分ニ對スル補充藥ヲ購入シ縣下ニ配給シタルニ豫想外良好ナル利用成績ヲ納メタリ。

ヘ、施藥

縣下醫師ナキ村及醫師アルモ面積廣大交通不便ナル村ニ居住スル要救療者ニ對シ醫師ノ來ル迄ノ應急措置ニ服用セシムル爲縣ニ於テ調製セル家庭藥(一袋十八方劑)四千三百八十九袋ヲ配付シタルニ其ノ利用成績極メテ良好ナリ。

其ノ他特記スベキ事項

本縣ハ面積廣大ニシテ地勢山岳相重疊シ、交通便ナラズ、人口稀疎ナル山間僻陬ノ地多ク住民亦生活程度低ク醫療普及ノ圓滑ヲ期シ得ザル既存ノ事實ニ加フルニ、社會的經濟的不況ニ次デ一昨年ノ凶作ノ結果、公私經濟全ク逼塞シ、特ニ他縣ニ多クノ類例ヲ見ザラ農山漁村ノ窮極セル經濟事情ハ益々要救療者ノ激増ヲ見ルニ至リタルガ、過去四ヶ年半ニ亘ル救療ノ恩典ニ浴スルヲ得其ノ施藥救療ノ均霑ニ浴シタル者何レモ厥旨悠遠ニシテ極マル所ナキニ感奮興起正業ニ勵ミツツアル實情ニ在リ、之全ク御聖旨ニ基ク本施設ノ然ラシムル處ニシテ只々感激ノ外ナシ尙本年度ニ於テ感激スベキ挿話多クアルモ其ノ一、二ヲ摘録

スルニ左ノ如シ。

和賀郡 ○ ○ 村 ○ 野 ○ 次 郎

當五十五歳

右者昭和十一年十二月二十六日同村川舟ニ於テ薪伐採中其ノ下敷トナリ右大腿部ニ受傷歩行不可能トナリ治療セントスルモ、
同人ハ十四歳ヲ頭ニ三人ノ幼兒ヲ抱ヘ妻女ト死別シ僅カニ縁故者ノ救助ト薪伐採ヨリ得タル賃金ニ依リ糊口ヲ凌ギ來リタルモ
ノニテ、醫療ノ途ナク一家全ク途方ニ暮レシガ此ノ事ヲ知リシ同村受持巡查ハ診療券ヲ下附^{恩賜}濟生會黒澤尻病院ニ入院治療
セシニ、其ノ後經過良好爾來常ニ 御聖恩ノ宏大ナルニ感泣シ日夜 聖恩ニ浴シタルヲ思ヒ家族一同感激シツツアリ。

下閉伊郡 ○ ○ 町 ○ 藤 ○ 郎

當二十四歳

同 ○ 上 ○ 郎

當八歳

同 ○ 藤 ○ 一

當十四歳

同 ○ 崎 ○ ツ

當十六歳

同 ○ 藤 ○ ラ

當五十九歳

下閉伊郡 ○ ○ 村 ○ 木 ○ ツ

當五十七歳

同 ○ ○ 村 ○ 尾 ○ 助

當六十三歳

右ノ者何レモ貧困ニシテ醫療ノ途ナク困憊其ノ極ニ達シ居リシガ此ノ事ヲ知リシ役場吏員、方面委員、受持巡查等ヨリ診療券
ヲ下附^{恩賜}濟生會 ○ ○ 病院ニ入院加療中ナリシガ昭和十一年十二月二十五日畏クモ 皇后陛下ヨリ御下賜品ノ傳達アリ、其ノ
光榮ニ浴シタル前記七名ハ何レモ 皇恩宏大無邊ナルニ只々感涙ニ咽ビツツアリ、之偏ニ恩賜ノ醫療ニ因ルモノト家族親戚ハ
勿論近隣ノ者モ鴻恩ノ厚キニ感泣シ居レリ。

青森縣

實施ノ概況

本醫療救護ハ彙ニ報告ノ實施計畫通り^{恩賜}濟生會ヲ通ジ委託診療、出張診療（豫算ノ關係上中止シ居レリ）、巡回診療ノ三種ニ
ヨリ實施セリ。

救療ノ範圍 市町村長又ハ警察署長ノ報告セル要救療者中ヨリ名簿ニ登載ノ救療者ノミニ限リ救療スルモノナリ。

一、委託診療

委託診療ハ市町村長又ハ警察署長ヲ通ジ要救療者ニ救療券ヲ發給シ縣下開業醫師並公私立病院ニ（協定藥治料金ヲ以テ）診療
ヲ委託施行セリ。

救療券ノ種別及ソノ交付數左ノ如シ。

- 一、外來救療券 二千九百五十二枚
- 一、住診救療券 四百十七枚
- 一、入院救療券 七百八十四枚
- 一、手術救療券 百六十四枚

右ノ通りニシテ前年度ニ比シテ減少セルハ配當豫算ノ關係ニヨルモノナリ。

二、出張診療

出張診療ハ醫師ノ常住ナキ町村ニ對シ最寄開業醫ヲシテ一ケ村一ケ月三回(十日間毎ニ)出張シ出張診療所ヲ開設シ要救療者ニ救療券(出張診療券)ヲ發給シテ診療ヲ爲サシムルナリ。

十一年度ニ於テハ豫算關係上不得已得施行取止ム。

三、巡回診療

巡回診療ハ醫師ノ常住ナク又醫師常住シアルモ交通不便ニシテ救療上困難ナル僻陬村落ヲ(豫メ施行スベキ町村ノ希望モ聽キ)選定シ一ケ月一回(二日間)縣編成ノ巡回診療班(醫師、看護婦、事務員ノ各一名ヲ以テ組織ス)ヲシテ診療ニ從事セシメタリ。

特ニ冬期間ニアリテ交通機關杜絶シ最モ僻陬ノ部落ニ對シテハ診療従事員ハスキール利用スル等本救療ニ遺憾無キニ努メタリ、施行セル町村數ハ六十四ケ町村ナリ。

山形縣

實施ノ概況

昭和十一年度ニ於ケル醫師救護費ノ國庫交付金總額二萬八千七百七十八圓中一萬八千七百七十八圓ハ財團濟生會ヲ通ジ從來ノ救療方法ニ依リ之ヲ行ハシメ殘額一萬圓ニ縣費四千四百圓ヲ以テ縣直接施行ノ事業トシテ左記方法ニ依リ出張診療ヲ實施セリ。

一、出張診療

イ、出張診療ハ前年度ト大體同様ノ實施計畫ヲ踏襲、縣下醫師ナキ八十六ケ村中、僻陬ノ地ニシテ醫療ヲ受クルニ困難ナル村ヲ選定、定期出張診療スルコト、シ縣醫師會ト契約ノ上隣接開業醫ヲ以テ之ニ當ラシメ更ニ縣藥劑師會ト看護婦會ト契

約シ出張診療ニ參加セシム。然シテ豫算ノ關係上四、五、六、三ケ月ハ三十一ケ村、七月以降三月迄ハ二十一ケ村ニ於テ實施四、五、兩月ハ月三回宛七月以降十一月迄月二回宛十二月以降三月迄月一回宛施行セリ。

ロ、出張診療ニ依ル診療患者ハ當該村民ノ傷病者ニシテ要救療者ハ之ヲ名簿ニ登錄シ置キ之等患者ノ藥治料ハ別ニ協定セル範圍ニヨリ縣ヨリ縣藥劑師會ニ支拂ヒ其ノ他ノ患者ハ有料患者トシ縣藥劑師會ニ於テ患者ヨリ直接徵收スルコト、ナシ醫療ノ普及並ニ救療ノ徹底上遺憾ナキヲ期シタルモノニシテ當該村民ハ本事業ヲシテ恒久的施設タラシメラレシコトヲ要望スルヤ切ナルモノアリ。

二、財團濟生會委託救療

昭和十一年度ニ於ケル濟生會委託醫療救護費配當額ハ一萬八千七百七十八圓ニシテ之ヲ前年度配當額三萬八千七十九圓ニ比シ一萬九千三百一圓ノ減額トナリタルガ、大體前年度ノ計畫ヲ踏襲スルコト、シ診療券一萬二千枚ヲ發行シ縣醫師會、縣齒科醫師會及縣内公立病院並公立診療所ト契約シ事業ヲ實施セリ。

尚事業實施ニ當リテハ之ガ最善ヲ期スベク警察署長、市町村長及縣醫師會其ノ他ニ對シ數次ノ通牒、通達ヲ發シ諸般ノ事項ヲ指示シ注意ヲ促シ業績ヲ擧グルニ努メ、一面豫算ノ經理ニ當リテモ細心ノ注意ヲ拂ヒ、救療費配當豫算一萬八千七百七十八圓ノ内事務費ハ僅カ四百六十二圓九十九錢ノ少額ニ止メ、他ハ凡テ救療費ニ充當シ遺憾ナキヲ期シタリ。

秋田縣

實施ノ概況

一、委託診療

醫療ヲ受クルコト能ハザル者ニ對シ市町村當局、警察官吏、方面委員等ニ於テ調査シ協議ノ上要救療者名簿ヲ調製シ其ノ名簿ニ登錄セラレタル者ニシテ疾病ニ罹リタルトキハ救療券ヲ交付シ豫メ委託セル一般開業醫師ヲシテ診療セシム。

二、出張診療

僻阪ノ地ニシテ醫師設備ナキ十六ヶ村ニ一ヶ月三回以上地方開業醫師ヲ出張セシメ、主トシテ要救療者名簿ニ登録セラレタル者ヲ診療セシム。

三、委託助産

要救療者名簿ニ登録セラレタル産婦ニ對シ一般開業産婆ニ委託無料ニテ助産セシム。

四、巡回産婆

開業産婆ノ居住セザル十六ヶ村ニ對シ十二名ノ開業産婆ニ委託一ヶ村ヲ隔月毎ニ巡回セシメ妊産婦ノ攝生並育兒ニ關スル注意指導ヲナサシム、又分娩ニ遭遇シタルトキハ助産ヲ爲サシム。

五、施藥

醫療設備ナキカ若ハ設備アルモ種々ナル事情ニヨリ常ニ醫療ニ恵マレザル町村ノ極貧者ニ對シ應急用常備藥ヲ配給ス。

其ノ他特記スベキ事項

秋田縣平鹿郡〇〇町

戸主 〇 西 〇 三

當五十一歳

右ノ者ゴム靴修繕並賣藥請賣行商ヲ爲シ月收金十五圓妻某ハ日雇業ヲ爲シ月收金十圓位ヲ得テ一家六名貧困ノ生活ヲ爲シ來リタルモノナルガ、昨年三月妻某ハ産後ノ生立悪シク日増ニ衰弱シ、加フルニ眼病ヲ併發シ殆ンド絶望ノ状態トナリタルモ貧困ノ爲醫療ヲ受クル資力ナク一家ハ瀕死ノ状態ニ陥リタルヲ以テ恩賜醫療救護券ヲ交付シ〇〇公立病院ノ治療ヲ受ケシメタルニ本人治療中四男某モ病魔ニ襲ハレ續イテ本人モ胃腸ヲ患ヒタルニ加ヘ二男某モ亦肺炎ニ罹ル等一家ハ貧苦病魔ニ斃レントスル状態トナリタルヲ、是又恩賜醫療救護券ヲ與ヘ夫々醫師ノ治療ヲ受ケシメタルニ一家ハ殆ンド全快シ、夫婦共勞働ニ従事スルコトガ出來得ル常態ニ復シ一ヶ年振りニテ光明ニ向ヒ一家ハ勿論之レヲ知ル者ハ皆 聖恩ニ感泣シ居レリ。

福井縣

實施ノ概況

昭和十一年度ニ於テ本縣へ國庫補助金一萬五千九百九十圓配當ヲ受ケ内八千七百九十圓ヲ縣直接事業トシテ巡回診療出張診療ニ充テ、七千二百圓ヲ一般委託診療費トシテ 恩賜財團 濟生會ヲ通ジテ行フ事業ニ充テ、警察署長、市町村長協調ノ上、左記救療事業ヲ實施シタリ。

一、巡回診療

縣下無醫村中交通不便甚ダシク且ツ貧窮村ノ爲醫療ヲ受クルニ最モ困難ナル左記三ヶ村(四ヶ所)ニ對シ縣ヨリ醫師一名調劑員一名雇一名ヨリナル巡回診療班ヲ組織シ毎月三回宛定期巡回診療ヲ行ヒタリ。

大野郡坂谷村

同 五ヶ村(上打波 下打波)

南條郡坂口村

二、出張診療

村内開業醫ナク醫師アルモ村内交通不便ニシテ醫療ヲ受クルニ困難ナル村左記十三ヶ村ニ對シ、近接町村醫師ニ委囑シ毎月定期三回乃至十回宛出張診療ヲ行ヒタリ。

大野郡上味見村

同 下味見村

坂井郡坪江村

今立郡下池田村

丹生郡西安居村

同 下岬村

南條郡鹿森村

同 宅良村

敦賀市松原區

三方郡西田村

遠敷郡鳥羽村

同 奥名田村

大野郡北谷村

三、一般委託診療

縣下各市町村ニ對シテハ公私立病院、開業醫師ニ委託シテ治療券ニ依リ居宅及收容診療ヲ爲サシメ、又必要ニ應ジテ開局藥劑師ニ委託シテ投藥ヲ爲サシメタリ。

其ノ他特記スベキ事項

本縣醫療救護ノ實績ヲ見ルニ別表ノ通りナルガ、被救療者ハ何レモ縣内僻陬地村或ハ貧困者ニシテ醫療ヲ受クルニ最モ困難ナル者ナレバ此等階級者ノ最モ苦痛トスル醫療費ノ負擔ヲナカラシムルト共ニ、早期發見治療ニ依リ生活ノ困窮ヲ未然ニ防止シ又衛生知識ノ無知ニ依ル罹病ヲ減ズルト共ニ之ガ普及ニ資スルヲ得タリ。

石川縣

實施ノ概況

昭和十一年度ニ於テハ前年度ニ於ケル實施方針ニ基キ之ヲ委託診療、診療出張、救療藥配布トニ大別シ石川縣醫師會並ニ縣内ニ於テ開業セル齒科醫師、藥劑師及産婆ニ委嘱シ助産以外ハ治療券制度ニ依リタリ。

要救護者選定ニ關シテハ戶數割一戸平均額ノ三分以下ノ者ニツキ救療ノ範圍ヲ限定セシメタルモ尙要救護者戶數一萬七千六百八十三戸人員七萬八千七百四十五人トナレリ、治療券ハ恩賜治療券、恩賜入院治療券、恩賜調劑券ノ三種類トシ之ヲ豫メ町村ヘ要救護者並ニ前年度患者數等ヲ參酌シテ按分配當シタリ、而シテ現今ノ社會情勢ヨリシテ濫救ニ陥ルコトナキ様特ニ町村長ニ注意ヲ與ヘ以テ事業ノ施行ニ當リタリ。
元來治療券制度ノミニ依ル救療ハ地理的天候等ノ關係ニテ患者ノ不便トスル處多キニ鑑ミ其ノ對策トシテ昭和八年ヨリ僻陬村三十ヶ村ニ付左記十種ノ救療藥ヲ配布シタルニ其ノ成績良好ナルモノアルニ付、昨年度ニ於テハ更ニ二十六ヶ村ヲ増加配布セシニ、益々好評ヲ博シ且ツ之レガ配布ヲ要望スル町村多キニ鑑ミ更ニ本年度ニ於テハ七十四ヶ町村ヲ増加シテ之レガ配布ヲ行ヒタルニ其ノ成績豫想外ノ良好ニシテ左記ノ如キ利用成績ヲ示スニ至レリ。

解熱藥	四、八二九人
小兒解熱藥	二、〇〇八人
鎮咳藥	三、五七七人
小兒鎮咳藥	二、一五〇人
腹痛藥	一、八四三人
頭痛藥	一、九九二人
胃散	一、四八一一人
下痢止め藥	一、〇四一人
虫下し藥	七九〇人
外傷藥	三、一〇三人

出張診療ニ關シテハ前年同様十六ヶ村ニ實施セシモ又良好ノ成績ヲ擧ゲタリ。

而シテ診療出張回数九百六十回患者取扱實人員二千百三十七人、其ノ他要救護者以外ノ村民ニシテ便宜普通治療費ヲ支拂ヒ治療ヲ受ケタル患者取扱實人員三千百三十三人ニ及ベリ。

助産取扱ニ關シテハ未ダ十分趣旨ノ徹底セザル傾向アルモ漸次利用者ノ増加ヲ示シツ、アリ。

富山縣

實施ノ概況

本縣ニ於テハ縣ガ直接行フ巡回診療、出張診療及^{財團}濟生會ヲ通ジテ行フ委託診療ノ三方途ニヨリ實施シタルモノニシテ其ノ概況左ノ如シ。

一、巡回診療

醫療ヲ受クルニ最モ困難ナル僻陬村十二ヶ村ヲ選ビ醫師一名、看護婦二名ニテ組織シタル診療班一班ヲ以テ毎月一回乃至二回巡回セシメテ診療投藥ヲ行ヒ、又入院ヲ要スル患者ニハ濟生會ニ委託シテ入院治療セシムル等救療ニ遺憾ナキヲ期シタリ。

一、出張診療

附近ニ開業醫アルモ交通不便ニシテ委託診療ニヨリ救療シ難キ僻陬村十ヶ村ニ對シ、縣醫師會トノ契約ノ上最寄ノ附屬醫師會員ヲ以テ毎月二回以上定期出張診療ヲ行ハシメ救療ノ徹底ヲ期シタリ。
而シテ之ガ方法ハ縣ニ於テ發行ノ治療券ノ交付ヲ受ケタルモノハ當日其ノ診療所ニ至リ治療券ヲ提出シテ診療ヲ受クルモノニシテ之ガ交付ニ當リテハ漏救、濫救ニ陥ラザル様留意セシト共ニ趣旨ノ普及ニ努メタリ。

一、委託診療

普遍的ニ救療事業ヲ實施スル爲主トシテ巡回、出張診療ヲ行ハザル町村ニ對シ、濟生會ヲ通ジテ地方開業醫ニ委託シテ行ヒ、本來ノ^{財團}濟生會ノ事業ト相俟ツテ之等地方ノ救療ニ努メ救療事業ノ徹底ヲ期シタリ。

鳥取縣

實施ノ概況

- 1 内務省交付金ハ之ヲ全額^{財團}濟生會ニ委託シ救療ヲ行ヒタリ。
- 2 被救療者ノ資格ハ傷痍疾病、出産等ニ當リ治療又ハ助産ノ資力ナク他ニ公私ノ救療ヲ受クルニ途ナキモノタルコト。
- 3 市町村長ハ警察官又ハ方面委員ノ申告ニ依リ被救療者ニ治療券又ハ助産券ヲ交付ス。
但入院治療並手術ヲ受クベキモノ又ハ著シク長期ニ亘リ救療ヲ受クベキモノ等ニ就テハ市町村長ハ縣ニ協議ノ上法定ス。
- 4 縣及市役所、町村役場ニハ被救療者臺帳ヲ具ヘ救療ノ普及徹底ニ努メタリ。
- 5 治療券ハ^{財團}濟生會鳥取縣救療實施規程ニ依ルコトトシ、市町村長ノ請求ニ依リ之ヲ配布スルノ外若干部數ヲ前渡シシ縣ニ於テ囑託中ノ^{財團}濟生會醫師並齒科醫師、藥劑師又ハ産婆ニ依リ治療又ハ助産ヲ受ケシメタリ。
- 6 醫師ノ居住セザル農漁山村若ハ醫師居住スルモ、著シク醫療ヲ受クルニ不便ナル十五ヶ村ニ醫師ヲ派遣シ出張診療ヲ實施シタリ。

島根縣

實施ノ概況

昭和十一年度ニ於ケル醫療救護事業ハ國庫交付金ヲ縣費ヘ繰入レ大體昭和十年度ノ計畫ヲ踏襲實施シタルガ、昭和十一年度國庫交付金ハ前年度交付金ニ比シ約一萬圓減額セラレタルヲ以テ交付金ニ縣費三千圓ヲ加ヘ警察署長、市町村長、方面委員等ヲ督勵シ左記方法ニ依リ本事業ヲ實施シ遺憾ナキヲ期シタリ

一、委託診療

委託診療費ヲ各警察署ニ割當、治療券ハ地方ノ實情ヲ知悉セル市、町、村長ヲシテ之ヲ交付セシメ縣内一般開業醫師、齒科醫師、藥劑師、産婆ニ委託シ救療セリ。

二、出張診療

無醫村中最モ不便ナル村ヲ選ビ出張診療所ヲ開設シ、一ヶ所毎月三回乃至五回開業醫師ヲ出張セシメ救療ニ努メタリ。

三、巡回診療

醫師一、雇一、看護婦一ヲ以テ巡回醫療班ヲ組織シ無醫村若クハ有醫村ナルモ地域廣大交通不便ナル九ヶ村ヲ選ビ毎月二回ツツ巡回醫療ヲ實施シタリ。

岡山縣

實施ノ概況

昭和十一年度醫療救護實施ニ關スル通牒ニ接シ上半期分救療費ノ配當アリタルニ依リ、更ニ之ニ縣費ヲ加ヘ、醫師常在セザル町村ニシテ救療ヲ行フニ不便ナル十九ヶ村ニ對シテハ出張診療ヲ、醫師常在セザル町村ニシテ出張診療ヲモ行フニ不便ナル十ヶ村ニ對シテハ巡回診療ヲ、其ノ他ノ市町村ニ對シテハ委託診療ニ依ル方法ニ依リ、既往ノ實績ニ鑑ミ市町村ニ對シテ救療費ノ割當ヲ爲スト共ニ直ニ之ガ施行ニ關スル通牒ヲ發シ極力之ガ主旨ノ普及徹底ニ努メタリ。尙要救療者多數アリト認めラル、町村ニ對シテハ救療費ノ追加割當ヲ爲シ實施ニ關シ萬全ヲ期シタル結果本年度中ニ於テ一萬四千六百五十九人ノ多數ノ貧困病者ノ救療ヲ爲スコトヲ得タリ、尙眞庭郡美川村外十ヶ村ノ僻陬ノ地ニ對シ眼科、耳鼻科ノ特別診療ヲ行ヒタリ。

廣島縣

實施ノ概況

一、要救療者資格
要救療者ハ本縣内ニ居住スル者ニシテ準第二種カード階級ヲ主トシ方面委員又ハ方面委員會ニ於テ適當ト認めタルモノニ限ル。

二、診療券配付方法

縣下一千六百五十名(昭和十二年一月十五日二千二百名ニ増員)ノ方面委員ニ對シ豫メ診療券ヲ配付シ置キ委員ヨリ該當者

ニ交付セシム。

三、事業方法

イ、委託診療

診療ハ廣島縣醫師會及廣島縣齒科醫師會トノ契約ニ依リ之ニ診療ヲ引請ケシメ報酬ハ健康保險點數計算式ニ據リ支拂フコト、セリ。

ロ、出張診療

醫師ナキ町村又ハ醫療ニ不便ナル部落ヲ有スル町村ニ設置セル二十七ノ出張診療所ニ對シ醫師手當(一人平均三百三十六圓)ノ二分ノ一以內ヲ補助シ事業ノ助成ヲナス。

四、診療成績

本年度中ニ於テ取扱ヒシ患者ハ實人員一萬六千六百二十八人延人員二十九萬二千三百七十六人ニシテ醫師ヨリノ請求點數五十四萬三千三百八十一點五(前半期三十四萬四千五百九十九點五 後半期二十三萬九千三百二十二點)ニシテ査定點數四十五萬六千四百六十點五(前半期二十五萬二千七百七十七點五 後半期二十萬四千三百八十三點)ニシテ一點單價前半期七錢一人一日十錢九厘後半期一點單價八錢七厘一人一日十三錢七厘ナリ。

五、出張診療所

縣下二十七ヶ所ニ於ケル出張診療所取扱患者左ノ如シ

有料患者實人員	九、三六〇人
無料(縣診療券ニヨル)患者實人員	九三五五人
濟生會取扱患者實人員	二六八人
救護法取扱患者實人員	一人

其ノ他特記スベキ事項

受持部内ニ居住スル大〇義〇ナル者ガ二三年前岡山縣〇〇町ノ本籍地ヨリ家財ヲ賣拂フテ母(五十五歳)妹(二十五歳)ト共ニ吳市〇〇町ニ來住シ吳海軍職工トシテ通勤シ居リシガ昭和十年秋頃ヨリ神經痛ニ罹リ昭和十一年一月解僱セラレ爾來治療ニ多少ノ貯蓄モ消費シ盡シ去ル五月大坪谷ナル仙人風呂ニ入浴治療スベク同地ニ移住シ母妹看護ノ下ニ浴療ヲ續ケ來リシモ座シテ食ヘバ山ヲモ空シデ一家ノ生活ハ日毎ニ窮迫ヲ告グルニ至リ本人ノ病勢又漸次悪化セルモ新來者ノ事トテ縁故者モナク、憂愁ニ沈ミ居ル一家ノ状態ヲ聞知シ本委員ハ同家ヲ訪問シ病床ニ瘠骨ヲ横ヘ呻吟セル本人ヲ見舞ヒ急遽電話ニテ阿賀町名草隆三郎醫師ノ來診ヲ求メ診療券ニ依リ治療方依頼セシニ一家ノ境遇ニ多大ノ同情ヲ激ギ専心治療ニ盡サレシモ心臟病ヲモ併發シ重態ニテ病魔ハ益々其ノ威ヲ逞シ既ニ膏盲ニ入ル七月二十四、五日頃ヨリ死ニ至ル二十八日迄ノ數日間ハ容態危急ヲ告グル度毎ニ切ナル家人ノ來診ヲ需ムルヤ十數町ヲ隔ツル僻地ニ三伏ノ苦熱モ厭ヒナク夜半未明ヲ介意セズ一日數回往診シテ其ノ都度犠牲的高價藥ノ注射ヲ施シ死ノ直前ニハ泪グマシキ懸命ノ努力ヲ盡サレタリ然ルニ遂ニ其ノ甲斐モナク永眠シタノデアル遺サレタル母妹モ此ノ柱石タル本人トノ死別ノ情固ヨリ悲痛哀惜禁ジ難カリシモ貧シキ中ニモ死ノ刹那ニ至ル迄親切ナル醫師ノ治療ヲ受ケシハ實ニ診療券ノ御蔭ナリト本委員ニ感謝ノ念ヲ捧ゲタノデアル。

山口縣

實施ノ概況

本縣ニ於テハ概ネ前年度ト同様ニシテ全部恩賜濟生會ヲ通ジテ之ヲ行ヒ巡回診療ヲ行ハズ委託ト出張ノミヲ行ヒタルガ特記スベキ事項ナシ。

和歌山縣

實施ノ概況

本年度ニ於テモ前年度同様ノ實施方針ニ基キ、委託、出張ノ二診療ヲ實施セリ。委託診療ニ於テハ其ノ取扱患者實人員二千七百八十三名其ノ延人員五萬四千三百四十九名ニ達シ成績良好ナルモノアリ。又出張診療ニ於テハ縣下無醫村中二十九ヶ村ニ出張診療所ヲ設置シ、之又醫療ノ恩典ニ浴セシモノ不尠、其取扱患者實人員四千八百五十四名延人員二萬二千七百六十九名ニ達シ成績顯著ナルモノアリ、醫療施設上適切ナル事業タルモノト思料セラル。

其ノ他特記スベキ事項

二人ノ幼ナ兒ヲ遺シテ夫ニ先立タレタ某ハ、駄菓子行商ヲシナガラ辛ウジテ一家ノ暮シヲ立テ、キタガ、フトシタ事ガ原因トナツテ眼ヲ患ヒ、失明ノ憂ニ惱ム。之ヲ知ツタ方面委員某ハ早速本醫療ニ依ツテ救護ノ手續キヲトツタノデアツタガ、最早手遅レノ感ガアツタ。然シ萬一ヲ頼ンデ手術ヲナシ治療ニ盡シタ甲斐アツテ、經過意外ニ良好ニテ半年ノ後完全ニハ至ラズトモ仕事ニ差支無キマデニ癒エタ、失望ノドン底カラ、光明ヲ見出シテ浮ビ上ツタ母親ノ感喜、ソウシテ今後子女教育ニ、家庭生活ニ、日本婦人トシテ雄々シク立ツテ行コウトスル決意ヲ益鞏固ナラシメタ。

取扱者タル我々ニ於テモ感激措ク不能、自ラ醫療施設ノ徹底ヲ心ニ誓ツタノデアツタ。醫療救護ニ於ケル斯ル事例ハ其ノ他枚舉ニ遑ナキモ、之等ハ總テ美シキ愛ト涙ノ物語タラザルモノハナイ。其ノ恩典ニ浴セシ者ハ勿論浴セザルモノモ相携ヘテ相互扶助、貧者救濟ノ氣焰ニ燃エツ、アリ、皇國日本將來ノ爲、誠ニ喜バシキモノト愚考セラル。

徳島縣

實施ノ概況

委託診療ニ於ケル外來及ビ入院、出張診療ニ於ケル外來患者ノ取扱等從來ト異ナル所ナク救療方法ニ於テハ要救療者ノ數、地方疲弊ノ狀況等ヲ參酌シテ割當豫算ヲ定メ救療券ヲ配付シ市町村、警察署ノ連絡ヲ緊密ニシ方面委員ヲ通ジテ交付スルコトモ亦タ在來施行ノ方法ニ依リタリ又入院券、普通治療券、短期治療券、處方箋券、助産券等ノ種類及ビ各ノ其有効日數等ニ於テモ變更ナシ唯ダ救療患者ノ標準ニ於テハ豫算ノ關係上多少ノ斟酌ヲ加ヘタリ。

香川縣三豊郡勝○村大字○○

履物行商 谷 ○ ○ ○ ○

當四十二歳

右ハ二年前夫ガ病没シ女一人ニテ子女五人ヲ養育シ辛ジテ一家ヲ支ヘ居リタル處、長男及次男ノ二人ガ時ヲ同シテ「ルイレキ」ニ罹リ、一家ハ悲歎ニ暮シ居リタルヲ救療シ重ネテ同年五月自ラ痔核ニ罹リ其ノ日ノ生活ニモ困難ノ状態ニアルヲ、駐在藤田巡査ニ發見サレ入院手術ノ上全家族快癒シ長男、次女ハ出稼ギ、本名ハ生業ニ就キ幼兒ノ養育ニ當リ一家ハ更生シ其ノ聖恩ノ鴻大ナルニ感激シ居レリ。

香川縣香川郡川○村大字○○○番地

青物行商 植 ○ ○ ○ ○

當六十三歳

右者既ニ相當ノ老齡ニ達シ居ルニ不拘、生來怠惰癖ト飲酒癖ハ依然熄マズ、爲ニ本籍地ニモ居溜ラナクナリ昭和六年頃ヨリ前記住所地ニ轉住シ寡婦福○コ○ナル者ト同棲スルニ至リタルガ尙素行修ラズ常ニ飲酒仲間ト交際シ居リタル處、偶々昭和十一年四月中旬頃道路ニ顛倒胸部ヲ強打シタルガ原因トナリ、肋膜炎ヲ併發シ病狀ハ逐日昂進シ旬日ヲ經ズシテ重症ニ陥リ、所持金及貯金等皆無ナル爲メ醫療ハ勿論莫施モ施シ得ザル悲惨ノ極ニ達シ呻吟シ居リタルヲ、當時ノ駐在巡査合田龜太郎ハ恩賜ノ主旨ヲ言明セ治療券ヲ交付シ約三ヶ月間ニ亘リテ醫療ヲ爲サシメタルニ漸次快方ニ向ヒ同年十月頃全快スルニ至リタルガ、本人ハ茲ニ於テ始メテ 皇恩ノ無邊ナルコトヲ認識スルト同時ニ反省シ深ク悔悟スルニ至リ全快ヲ契期トシテ心身ヲ一變シ、嗜好物タル酒モ全ク斷チ一意専心生業ニ精勵スルニ至リタルモノニシテ家人ハ勿論近隣者モ禍轉シテ、福トナレリトテ當局ノ溫情的行爲並ニ 皇恩ノ厚キニ感激シ居レリ。

香川縣木田郡○中村大字○

小 ○ 連 ○ 郎 當二十九歳

右者昭和十一年十二月十八日盲腸炎ニ罹病々床ニ呻吟スル身トナリ、香川郡鹽江村某醫師ノ診療ヲ受ケツ、アリシモ、容態ハ逐次惡化シ危險状態トナリ且何分山間僻地ノ爲往診料藥價其他ニ多額ノ經費ヲ消費シ一家ノ支柱タル者ノ臥床裕カナラザル家計状態ニテ一族ハ悲歎ノ極ニ達セリ、偶々本年一月九日^{恩賜}財團濟生會診療班ノ來村ヲ知ルヤ第一回診療ヲ受ケ、療養セル結果流石昂進セル重態モ漸次危險状態ヲ脱スルニ至リ、引續キ醫師看護婦係員等ノ懇切ナル指示同情ニ依リ入院券ノ交付ヲ受ケ、高松市三宅病院ニ入院手術療養ノ結果、四月上旬全ク治癒退院スルニ至リ、悲歎ノ極ニ達セシ家族一同モ愁眉ヲ開キ歡喜雀躍、恩惠ヲ感謝シツ、一家更生シ發奮、家業ニ精進シ居レリ。

愛媛縣

實施ノ概況

一、本年度ニ於ケル醫療救護事業ハ前年度同様ノ計畫ニヨリ之ヲ委託診療及出張診療ノ二者ニ分テ實施シタルニ、之ガ取扱實人員一千九百十名ニシテ内助産四十名ヲ算セリ、即チ救療實人員ニ於テハ要救療者ノ全般的ニ亘リ恩典ニ浴セシムルコトヲ得ザリシ嫌ナシト雖モ、之ヲ延人員ニ於テ看ルトキハ其ノ實績僅少ナラザルモノアリ。
二、出張診療ニ於テハ無醫村七十餘村ノ内特ニ醫療機關ノ利用困難ナリト認メラル、僻陬村十ヶ村ヲ選ビ、隣接地開業醫ヲシテ毎月二回定時出張ヲ委囑シタルニ、取扱人員ニ於テハ稍減少ノ感アルモ本出張醫師ヲ利用シタル一般住民ノ數ハ實ニ六百四十五名ノ多數ヲ算シ、之等醫師常任セザル村民ヲシテ醫療ヲ受クルノ機會ヲ與ヘ思想善導上ニ於テモ大ナル効果ヲ擧ゲ得タリ。

高知縣

實施ノ概況

一、委託診療

本年度ニ於ケル醫療救護ハ前年度ノ實施方針ヲ踏襲シ、全部ヲ^{恩賜}財團濟生會ヲ通ジ委託診療ヲ以テ實施シタリ。
普通治療券ヲ從來ノ實績ニ徴シ市町村ニ配付シ入院、手術等多額ノ經費ヲ要スル患者發生シタル場合ハ市町村長ヨリ其ノ都
度申請セシメ該治療券ヲ許可交付セリ。

市町村長ニ於テハ方面委員、警察官吏ト協力シ市町村ノ住民ニシテ疾病傷痍出産等ノ爲メ診療又ハ手當ヲ要スルモ、貧困ニ
シテ之ガ途ナキ者ニ發給シ、醫師會員、齒科醫師會員、藥劑師會員、產婆會員若クハ救療事業ヲ實施シツ、アル社會事業團
體（日本赤十字社高知支部病院、基督教婦人矯風會高知支部診療所、高知慈善協會）ニ委託診療セシメ、其ノ取扱患者實人
員九百二十人延人員四萬一千四百十一人ニ及ベリ。

而シテ本年度ハ國庫交付金急激ニ減少シタルヲ以テ之ガ對策ニ腐心シタルモ縣財政ノ都合上縣費支出モ出來難ク不得止事業
ヲ大イニ縮少シ、此ノ旨市町村長ニ通牒シ眞ニ不得止患者ノミヲ救療シ得ザルノ實狀ニアリタルハ救療事業ノ本質ニ鑑ミ甚
ダ遺憾トスル所ナリ。

其ノ他特記スベキ事項

醫療救護ノ實施セラレテヨリ病床ニ呻吟セル要救療患者ハ勿論其ノ家族等ニ於テハ宛ラ旱天ニ慈雨ヲ得タルガ如ク 聖恩ノ有
難サニ感泣シ敬虔ノ念ヲ持ツテ治療ニ終始シ恢復ニ至リタル者ハ鴻大ナル 聖旨ニ感奮興起致々トシテ己ガ業務ニ精勵シツ、
アリ。

福岡縣

實施ノ概況

本縣ニ於ケル醫療救護事業ハ昭和七年ヨリ實施シ來レル從來ノ救療施設ニ準ジ國庫配當金三萬一千三百五十一圓ニ縣費四萬
七千二百三十一圓計七萬八千五百八十二圓ヲ以テ縣醫師會、藥劑師會、產婆會ト協定セル委託診療規程ニ依リ委託診療、委託

助産及出張診療ヲ繼續實施シ居レリ、本事業實施以來縣下ニ於ケル生活困難ナル患者激増シ其ノ難有恩典ニ浴シタル者ハ何レ
モ感泣シ居レリ。

大分縣

實施ノ概況

縣ニ於テハ國庫交付金一萬四千八百八十八圓ニ縣費一萬二千圓ヲ加ヘ計二萬六千八百八十八圓ノ豫算ヲ以テ前年通縣醫師會、縣齒科醫
師會ニ委託シ、委託診療ニ、巡回診療ニ、又無醫村僻地ニ對シテハ三十五名ノ出張診療醫ヲ囑託シ、毎月四回以内出張診療
ニ從事セシムル等ノ方法ニ依リ、管下貧困者ニ廣ク救療ヲ徹底セシメタリ、診療實人員四千九百四人延人員九萬二千五百十一
人ニ及ベリ。

佐賀縣

實施ノ概況

本縣ニ於ケル醫療救護ハ從來ノ救療施設ニ準ジ國庫配當金（内五千圓ハ^{恩賜}財團濟生會ヲ通ジテ配當）並ニ縣ト^{恩賜}財團濟生會及日本
赤十字社佐賀支部ヨリ救療費ヲ支出セシメ三團體協同ニテ施行シ之ニ要セシ事務費ハ縣費中ヨリ支出セリ。
醫療ノ種類ハ委託診療ト出張診療ト二方法ヲ採リ一般ノ要救療者ニ對シテハ縣下各開業醫（他縣へ隣接セル町村ニ在リテハ其
ノ關係他縣開業醫）又ハ病院ニ於テ委託診療ヲ施行セリ。

特種ノ關係ニ在ル醫療不便地（開業醫ナキ農漁山村並ニ開業醫ノ所在地ヨリ約二里以上ノ遠距離）ニ醫療出張所ヲ設ケ前年來
ヨリ實施中ナリシガ本年度ニ至リ出張所設置ノ市町村ニハ經費ノ都合ニ依リ地元負擔金ヲ支出セシメ囑託醫ヲシテ少ナクトモ
毎月三回乃至五回ノ出張診療ヲ爲サシメ同地ノ救療ニ努メタリ。

熊本縣

實施ノ概況

一、本年度ニ於テハ經費減ノ爲委託診療ハ前年通り實施セルモ、出張診療ハ五月末日限り之ヲ打切り、全縣下ヲ通ジテ委託診療ノミニ依リ救療セリ、而カシテ市町村社會事業係員又ハ方面委員ノ集合ノ都度本事業ノ主旨ノ存スルトコロヲ傳へ、救療ノ徹底ヲ圖ルニ努メタリ。

尙本年度初頭ニ於テカード階級名簿ヲ新ニ調整シ、該名簿登載者ニ限り治療券ヲ發行セリ。

醫療ニ關スル美談佳話

熊本市方面委員

出

田

猛 取扱

貧困ノ原因ハ大抵ハ病氣デアアル。特ニ結核ハ況シテサウダ。ソシテコノ病程怖シキモノハナイ。長キ年月苦痛ノ床ニ呻吟シ、介抱ノ手ヲ勞サセ資産ヲ失ハシメ、遂ニ身ヲ亡シ、家ヲ滅シ、國家社會ニ害毒ヲ流スニ至ル。此モ其ノ一例ト云ヘヨウ。
熊本市〇〇町坪〇ニ森〇〇(四十七歳)トイフ寡婦ガアル。其ノ夫清〇ハ十年前突然腦溢血デ死亡シタノデアアル。父親ガ一家ノ經濟ノ支柱デアアル大抵ノ下層ノ家庭ガサウデアアル如ク〇〇ハ十二歳ヲ頭ニ乳呑兒マデ四人ノ子供ヲ抱エテ此ノ社會ニ孤立ノマ、ホウリ出サレタノデアウツタ。ドウスル事モ出來ズ泣キ明シ泣キ暮シ途法ニクレテキタガ、長女〇〇ハ健氣ニモ立ツテ三人ノ弟ヲ引受ケ母ヲ働カセテ生活ノ足シトシテキタガ、女手ニ四人ノ子ヲ育テルノハ容易ナ事デハナカウツタ。衣類ヤ道具ヲ賣リ拂ツテハ其ノ日ノ口糊ノ足シトナシ味氣ナキ月日ヲ送り、昭和六年〇〇ハ十六ノ春ヲ迎ヘ一生懸命ニ働イテ生活ヲ助クルツチ、不圖風ノ心地ニテ病ノ床ニ就イタノデアウツタガ、春去リ夏來秋風ノ身ニ浸ム頃ニナツテモ微熱去ラズ、始ノ間ハ親類モ僅ノ金錢ハ融通モシテクレタガ、イッマデモ續ク管モナク熊本市〇〇町ノ生レ故郷ニモ住マレズナツテ一家ハ〇〇町ニ夫ノ從弟ガ居ルノヲ頼ミニ小學校ノ隣ノ下宿屋ノ六疊ノ一室ヲ三圓五十錢デ間借リヲナシ、〇〇ハ草葉町ノ渡邊病院ニ入院サセ治療ヲ加ヘタガ病狀ハ些ノ好轉ノキザシヲモナク三年ノ歲月ハ夢ノ間ニ流レ去ツタ。義侠ナル渡邊博士ハ此ノ不幸ナル病人ヲ慰メ無算ニテ一切ノ治療ヲナシ親切ニ世話ヲナセシモ運命ノ死ノ魔手ハ無慈悲ニモ頑強ニ襲ヒ母ヤ弟達ノ前途ヲ案ジツ、昭和十年ノ冬歸ラヌ旅ニ赴イテシマツタ。

〇〇ハ世間ガ眞闇ニナツタ心地ガシテ身モ世モアラズ歎キ悲シンダガ、カウシテハ居ラレナイト、一大勇猛心ヲ振り起シテ、三人ノ子供ヲ何トカシテ一人ニナサンモノト様々ニ苦心シタ結果、長男〇太郎ハ手頼リヲ求メテ大阪市〇〇町ノ洋傘商ノ小僧トナシ、二男〇次郎ハ熊本市〇〇町ノ〇〇寺ニ預ケテ、三男〇之ハ下宿屋ノ女將ニ託シ其ノ身ハ病人附添人トナリテ働クツチ又モ〇次郎ハ肋膜炎ヲ患ヒ〇〇寺ヨリ歸ツテ來タノデ治療ノ方法ニ窮シ方面委員ニ醫療救護ヲ請フ事ニナツタ。

此ノ相談ヲ受ケタ私ハ色々考ヘタガ、姉ハ昨年肺結核ニテ殞レ今又弟ガ肋膜炎ヲ患ヒ其ノ症狀モ惡性ナリト聞キ、先ヅ弟〇之ノ危険ヲ思ヒ又下宿屋ナレバ同居人モ多數デアアル。更ニ壁一重ノ小學校ニハ千數百人ノ兒童ガアル。此ノマ、ニ捨テ置クノハ危険此上モナイ。如何ニカシテ病人ヲ隔離センモノト思ヒ、〇〇ニ向ヒ厚カマシイ願デアアルガ、姉ノ關係モアルコトダカラ今一度渡邊博士ニ歎願セヨト勸メタガ、〇〇ハ姉ノ入院中ノ藥價サヘ差上ゲスニ又御願スルハ面目ナシトイフノヲ無理ニ勸メテ渡邊病院ニヤツタ所、寛仁ナル博士ハ快ク入院サセ醫療券ナドハ無用ナリトテ返戻サレタノデ、自分ハ病院ニ行キ厚ク禮ヲ述ベテ病人ノ頼ミ置イタ次第デアアル。二ヶ月餘ニシテ昭和十一年七月病氣モ稍々癒ニ歸宅ヲ許サレタ。

母親〇〇ノ喜ビモ東ノ間ニテ八月ニ至リ病氣ハ再發シタ。〇〇ハ近所ノ醫師ニ治療ヲ受ケタトシテ村上病院ヲ望ンダ。望ミニ任セテ醫療券ヲ發行シタガ村上醫學士ハ親切ニ診療サレ結核ノ初期ト診断サレタ。此ノ診断ハ豫期シタ所デアアル。猶更捨テ置ク譯ニ行カズ、速ニ隔離シテ傳染ヲ防ガンモノト思ヒ、戸馳ノ熊本市結核療養所ニ入所サセントテ其ノ手續ヲ取ツタガ豫診ノ結果入所サセルニ及バズトノ事デ空シク月日ヲ送ツタガ十月ニ至リ主治醫村上學士ヨリ今ノ中ニ療養所ニ入所サセル様ニト勸告ガアツテ、再ビ手續ヲナシ豫診ノ上入所ヲ許サレタガ母親不在ノタメ延ビ〇〇ニナリ十二月上旬入所シタノデ私トシテモ漸ク安心シタ。

月日ニ關守ナク早クモ昭和十二年ヲ迎ヘ二月二十六日トイフニ瘦セ衰ヘテ入所シタ〇次郎ハ見違ヘル程丸々ト肥エ太リ顔色モヨク元氣ナ身體トナツテ歸宅シタ。〇〇ハ病氣全快ノ喜ビハ譬ヘ様モナイ程デアウツタガ、差當ツテノ困難ハ生活上ノ問題デアアル。病後トイヒ虛弱ナル身體デアアルカラ、過激ノ勞働ニハ耐ヘナイダラウカラ、靴屋トカ洋服屋トカ手先キノ技藝ヲナス職ヲ

授ケタイトイヒ、又一方ニ困ルノハ弟ノ〇之ノ問題デア。兄ハ歸宅ヲ許サレ猶狭キ一室ニ同居スルハ懸念デア。シカモ母ハ病人附添ニテ不在勝ナレバ監督者ナク環境モ不良デア。ルカラ教育上カラ見テモ面白クナイ。

自分ハ母〇〇ニ向ヒ以上ノ懸念ヲ説キ佛教社會事業協會ニテ市内島崎町ニ和光童園トイフモノヲ設ケラレ貧困ナル孤兒ヲ養育サレル所ガアルノデ、入園ヲ願ツテハ如何トイヘバ最初ハ十分ニ合點セズ拒否スル様ナ言葉デアツタガ詳シク説明シテ考慮ヲウナガサセ、其ノ翌日來テ言フニハ病人附添ノ賃錢ハ六十餘錢ニ過ギズ〇之ノ下宿料ハ十圓ニテ頼ンデキルガ、其ノ支拂モ出來ズ其ノ他ノ負債モ増スノミデ今ノ分デハ母子二人ノ生活サエ出來ザル實狀デア。ルノデ〇次郎モ歸ルトナルト經濟上到底支エル事ガ出來ナイ程デア。ルカラ何卒和光童園ニ入園スル様ニ御世話下サイト云フ。

三月一日和光童園ニ至リ園長佐々木純性氏ニ面會ヲ求メ家庭困難ノ實狀ヲ訴ヘ入園ヲ願ツタトコロ佐々木園長モ與様モ同席ニテ快諾ヲ與ヘラレタノデ四月ノ新學年ヨリ入園スベキカ學年末ノ今日ヨリ入園スベキカヲ問ヒ、本園ニテハ何レデモ差支ナシ家庭ノ困難ヲ思ヘバ早イ方ガ宜シカラウトノ話シデア。ル。

喜ンデ辭去シ直ニ母親ニ其ノ事ヲ報ジタトコロ、母ハ一日ノ暇ヲ貰ヒ歸ツテ來テ、今ヨリ小學校ノ受持先生ニ御話シテ御許シヲ得テ入園サセタイトテ受持ノ先生ニ話シタ。先生ハ初耳ノコト、テ驚イテ之ヲトメ如何ニ困難ダトテ母親ノアル以上ハ母親ノ手ニテ養育サレヨ今ノ所デハ成績モ非常ニ宜シイカラ、今更別ノ學校ニ移ス迄モナイ。和光童園トハ如何ナル所カ知ラナイガ先ヅ見合セタ方ガヨカラウトノ話デアツタト母〇〇ハ云フノデア。ル。サウデア。ルナラバ同道シテ受持先生ノ了解ヲ得ヨウト〇〇ト共ニ學校ニ行キ昨年來ノ病氣ノ懸念ヤラ生活ノ困難環境ノ不良母親ノ監督出來ザル狀況ナドヲ述ベ和光童園交渉ノ始末ヲ告ゲタトコロ先生モ之ニ同意シ然ラバ校長ノ許可ヲ得テ直ニ學籍ヲ送ラウト約セラレタ。〇〇ハ大ニ喜ビ直ニ戸籍謄本ヲ受取リ〇之ヲ伴ツテ和光童園ニ行ツタ。佐々木園長ハソレト手續ヲナシ島崎小學校ニ轉校セシメラレ樂シク就學スル様ニナツタノデア。ル。

一方兄ノ〇太郎ハ同宿ノ人ノ周旋ニヨリ望ミ通りノ靴屋徒弟トナリ働ク事トナツタ。母親ハ心置キナク家政婦トシテ働キ長イ

年月病苦ト貧苦トニ惱マサレタ此ノ一家ニモ春ノ日ザシガ見エ初メタノデア。ル。

宮崎縣

實施ノ概況

昭和十一年度醫療救護ハ縣直接ノ施設ト、後半期ニ至リ國庫交付金ノ一部(二千九百四十五圓)ヲ財團濟生會ヲ通ジテ配付ヲ受ケ、何レモ委託診療ヲ主トシ一部巡回診療並ニ出張診療ヲ實施セリ。

委託診療ハ市町村長ヲシテ醫療券ヲ發行セシメ區長、方面委員ノ協力ヲ得テ濫救漏救ヲ嚴戒シ實績願ル舉リタルモ、豫算ノ關係上施設ノ全面ニ縮少ノ餘義ナカリシハ遺憾ナリ。

巡回診療ハ縣下無醫村、醫療不便村五ヶ町村ニ對シ實施シ成績顯著ナルモノヲ認メタルモ豫算ノ都合ニ依リ年度ヲ通ジテ實施シ得ザリシハ遺憾ナリ。

出張診療ハ縣下醫療不便二十ヶ町村ノ僻陬部落ニ對シ月平均二回實施セリ、成績可良ナルモ更ニ研究ト指導ヲ要スト認メタリ。

鹿兒島縣

實施ノ概況

一、救療ノ方法

救療ノ方法ハ前年度ト同様ニシテ、取扱上特別稅戶數割免除者ヲ標準トシテ該當者ヲ選定シ、豫メ市町村長ヲ通ジ家族診療券及治療證書ヲ交付シ、罹病ノ都度最寄醫師、齒科醫師ニ付治療ヲ得セシメ、又ハ處方箋ニ依ル調劑ヲ得セシム、昭和十一年度ニ於ケル家族診療券ノ發行數ハ九千二百五十八枚ニ及ベリ、救療該當者ハ救療者名簿ニ登載ス。

二、救療ノ種別及取扱患者數

救療ハ委託、出張及巡回ノ三診療方法ヲ執ル。

昭和十一年度ニ於テハ患者實人員六千八百十三人、治療延日數十五萬二千六百六十九日(一人平均治療延日數二二、八日)

ヲ取扱ヘリ。

イ、委託診療

診療ヲ醫師、齒科醫師等ニ委託ス、取扱患者實人員數五千七百四十九人、治療延日數十三萬九千八百八十二日ナリ。

ロ、出張診療

委託診療ヲ行ヒ難キ僻地ニ醫師ノ出張診療所ヲ設置シテ、救療該當者及一般民ノ診療ニ從事セシム、最寄醫師ヲ距ツル八
料、戸數三百戸ヲ標準トシテ十一ヶ所ヲ設置セリ、囑託醫師ハ月手當二十圓トシ出張回數ハ月四回以上トス。

出張診療所ニテ取扱ヘル救療患者實人員二百九人、治療延日數三千四百六十七日ニシテ、取扱ヘル一般患者ハ一千三十四
人ニ及ベリ。

ハ、巡回診療

委託及出張診療ニ依リ難キ無醫僻村ニ對シテハ、醫師、藥劑師等ヲ以テ一班ヲ組織シ巡回診療ヲ施行セリ。

巡回診療ニテ取扱ヘル患者實人員九百三十五人、治療延日數一萬二千日ナリ。

其ノ他特記スベキ事項

救療ハ保健上將又防貧救貧施設トシテ必須ノモノニシテ、一般該當者モ亦本事業ニ對スル感謝甚大ナルモノアリ、如何ニ感謝
感激セルカ其ノ進リトシテ附隨セル佳話挿話トモ稱スベキモノ多數存シ、茲ニ其ノ二三ヲ摘記シテ參考ニ資スルコト、セリ。

第一話 開眼

鹿兒島郡○○町○田

竹 ○ 喜 ○ ○

(當四十一歲)

右ハ開眼ノタメ痛ク感謝シ縣廳ニ出頭親シク禮ヲ述ベルト共ニ左記禮狀ヲ提出セリ。

治療御禮

目下 恩賜治療ヲ受ケテ居ル者デ誠ニ有難イコトデス、御蔭様デ助カリマシタ、厚ク御禮申上ゲマス、實ハ三年前妻ニ死別サ
レ三人ノ子供(ツヤ當十三歲、市治當十一歲、ユキエ當七歲)ヲ日雇稼ギニ依テ養育セネバナリマセン至テ貧困ナ者デス、本
年(十二年)二月二十五日某家ニ日雇稼ギニ行キ命令ノマ、重荷ヲ荷ヒ坂路ヲ下ル時、スベツテ轉ビ落テ豫テ健眼ノ左眼ニ竹ヲ
立テ(右眼ハ小兒ノ時眼病ヲ患ヒ雲ガカ、リテ失明)直チニ村ノ醫師ニ行キ治療ヲ受ケタ、醫師ノ言ハル、ニハ「水晶體飛ビ
出デ虹彩ハ脱出シ硝子體流出シ至テ重症ナレバ見ユル様ニナルニハ進モ難カシイ」ト、全ク今ハ盲同然故三人ノ子供ヲ養フコ
トハ出ナイト思フタ、役場係員ノ手ニ依リ鹿兒島市内ノ眼科醫師ノ診察ヲ受ケタルニ化膿サヘセナケレバ癒ルコト大丈夫ト告
ゲラレタ、依テ入院シテ有難イ治療ヲ受クルコト、ナリ御蔭デ段々良キ方ニナリ、濡レ紙ヲハグ様ニ明ルクナリ視力モ自然ト
出デ今ハ全ク歩行ガ出來ル様ニナリ日々ニ良キ方ニナル一方デス、眼鏡ヲ用ユレバ見エガ良ク又右眼モ毎日ノ治療ニ依テ雲ガ
ハゲテ見ユル様ニナリ誠ニ有難イコトデス、是ヨリ御蔭様デ働ケル様ニナリ日雇稼モ出來ル様ニ 御上ノ御力デ助カリマシタ
嬉シクテタマリマセン、謹ンデ御禮申上ゲマス。

第二話 「リュウマチス」

所轄警察署長報告

始良郡○○町○浦

福 ○ 春 ○ ○

(當四十九歲)

實母(當七十五歲)妻(當三十四歲)長女(當九歲)長男(當七歲)二男(當五歲)ノ六人家族ナルガ實母ハ老衰、妻ハ跛ニシテ充分ノ
稼ギ出來ズ困難ナル生計ヲ營ミツ、アルモ本人ハ數年前ヨリ「リュウマチス」ニ罹リ手足共ニ痛ミ、爲ニ殆ド農業ニ從事スルコ
トモ出來ザル有様ニシテ、方面事業助成會ヨリ月一圓五十錢宛ノ補助ヲ受ケ辛ウジテ餓死ヲ免レ悲慘ナル生活ニ喘ギツ、アル

モノナルガ、醫師ノ診療ヲ受ケントスルモ平素藥價不拂アルタメ治療ヲ受ケ得ズ、爲ニ稍々厭世觀ニ陥ルノ時、診療券ヲ交付サレタル當時ハ臂フルニ物ナク天ニモ昇ラン程ノ嬉シサヲ覺ヘタリト。

醫師宅ヨリ歸リ藥瓶ヲ神棚ニ靜置シテ其ノ有難キヲ感謝シ更ニ佛檀ニ持チ行キ祖先ノ靈ニ告グクシテ服用スルトキハ其ノ藥ハ身ニ沁ム心地シ兩三日後ハ疼痛モ減退シ仕事モ自然出來ル様ニナリシト言ヘリ、數年來ノ難症トテ根治迄ニハ餘程ノ日數ヲ要スルモノナランモ、全快ノ曉ハ粉骨碎身 皇恩ニ酬ヒント涙ヲ浮ベ居ル有様ナリ。

第三話 結 核

所轄警察署長報告

大島郡〇〇村〇目番地不詳重〇石〇宅ハ男四名ノ無資産日稼業ニシテ本人ハ失明、兄ハ七十三歳第ハ永年病臥シ數年前ヨリ糊口ニモ窮シ部落ノ同情ニ依リ漸ク生計ヲ營ミ居リ、昭和八年長男〇〇(當二十歳)ヲ大阪市天王寺ノ食堂ニ「ゴック」トシテ出稼セシメ、時々送金ニ依リ家計ヲ維持セシモ、昭和十年末ヨリ〇〇モ亦病ヲ得テ歸郷シタルモ、醫藥モ求メ得ズ、病狀モ益々悪化シツ、アリタル時、該當者トシテ診療券ヲ交付セラレ、爾來引續キ縣立大島病院ノ治療ヲ受ケタル結果、悲觀シ居タル肺結核、胃潰瘍モ今ハ快癒シ、再ビ上阪出稼セントシツ、アル實情ニシテ、本人家族一同有難キ 恩賜治療ニ對シ感激シ部落民ニ對シテモ深キ感動ヲ與ヘ居ル實狀ナリ。

第四話 失 明

始良郡〇〇町〇土新〇國(當三十八歳)ハ元某驛仲仕ニシテ家族六人(本人及妻當三十七歳、子供當九歳、當七歳、當四歳當一歳)暮シナリ、仲仕トシテ働キ居ル中數年前家屋ヲ新築シ(敷地共約五百圓位)タルモ三年程前ヨリ患ヒタル白内障次第ニ悪化シ爲ニ兩眼全ク失明セリ、爲ニ失職シ治療費及生活費ニ家屋ヲ賣却充當セシタメ全ク貧困者トナリ免稅者ノ取扱ヲ受ケ昭和十年八月該當者トシテ診療券ヲ交付セラレタリ、爾來隣接俾人町ノ醫院ニ入院治療ヲ受ケ約四ヶ月ヲ治療ニ費シ漸ク左眼ノミハ開眼スルヲ得タリ。

左眼ヲ得タルタメ現在ニテハ不自由ヲ土木人夫トシテ日給七十錢ヲ得ル有様ニテ、本人留守宅ニテ妻ノ話ニ依レバ本事業實施ニ依ル恩惠至大ナリト痛ク感泣セリ。

第五話 奉 納 師

始良郡〇〇村川〇番地不詳農乙〇清(當四十三歳)ハ妻〇〇(當四十二歳)ト子供八人(當三歳ヨリ當二十四歳迄)暮シニテ從來免稅者ノ取扱ヲ受ケ且診療券所持者ナリ。
偶々清〇ハ去ル十年十月頃ヨリ腹膜炎ヲ患ヒタルモ村内醫師ニ診療券ニ依リ治療ヲ受ケタル結果全快セリ、其ノ間子供四人モ夫々罹病セシモ何レモ診療券ニ依リ全治セリ、依テ痛ク感激シ過日同村南方神社祭典當日ハ御禮トシテ病氣全快祝ノタメ家族一同打揃ヒテ奉納師ヲ爲シ、村役場係員ニモ感謝ノタメ禮ヲ述べ來リタリト。

沖 繩 縣

實 施 ノ 概 況

救療方法ハ從來ノ如ク委託診療及ビ巡回診療ノ二種ナルガ更ニ昨年度ヨリ實施セル救急箱ノ配置モ繼續シタリ。
委託診療ニ於テハ外來八千二百八十四人往診一千二百二十三人入院九百人ニ達シ巡回診療ニ於テハ外來患者實ニ四萬三千八十一人ノ多數ニ上リ往診五百六十四人ニ達シタリ。
本縣ノ地勢ハ多數ノ離島ト山間僻陋ノ交通不便ナル村落多數ヲ有シ醫師ノ分布甚ダ宜シカラズ加フルニ一般ニ疲弊シ醫療費ノ負擔ニ堪ヘザル實況ニ在ルヲ以テ不遇ナル被救護者ハ本施設ニ對シテ多大ノ感謝感激ヲ捧ゲ只管 聖代ノ惠澤ニ感泣シ 皇恩ノ萬一ニ酬ヒ奉ランコトヲ誓ヒ居レリ。

昭和十三年三月二十八日印刷
昭和十三年三月三十一日發行

厚生省社會局

印刷人 小西嘉三郎
東京市京橋區八丁堀四丁目五番地

印刷所 不二印刷社
東京市京橋區八丁堀四丁目五番地
電話京橋(56)三二七五六三番

昭和十一年度

時局匡救

醫療救護實施概況

目次

第一表 醫療救護取扱患者數及治療日數..... 2

第二表 醫療救護取扱患者年齡別.....14

第三表 醫療救護取扱患者病類別.....18

厚生省社會局